令和２年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　宮城県　】

学校名【　名取市立閖上小中学校　】

１実践テーマ	Ⅲ
２実施対象者 （学 年・人 数）	名取市立閖上小中学校（第３学年・２１人） 名取市社会福祉協議会（５名）
３展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（　　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	キャップハンディ体験を通して，体の不自由な人たちの苦労について理解するとともに，そのような人たちに思いやりの気持ちをもって生活しようとする心情を高める。
５　取組内容	【車椅子体験】 ・　車椅子の扱い方や操作方法について学ぶ。 ・　車椅子を操作しながら，体育館に設置されたコースを進む体験験をする。 【白杖体験】 ・　白杖の扱いについて学ぶ。 ・　目隠しをして，白杖を使いながら歩き回る体験を行う。

	【目隠し体験】 ・　目隠しをしながら，シャンプーやリンスのボトルを当てるゲームを行う。 ・　身の回りには，目の不自由な人たちのことを考えて，生活がしやすいように工夫しているものがあることを知る。
６　主な成果	・　キャップハンディ体験を通して，体の不自由な人たちの日常生活における苦労などについて考えることができた。 ・　車椅子を利用している人を目にすることは多いものの，実際に車椅子に乗る経験をしている児童は少ない。実際に車椅子体験をしたことで，車椅子の操作の難しさを経験することができた。 ・　白杖体験では，周りが見えないことによる恐怖感を味わい，そのような人を見かけたときには，案内をしてあげたいという児童が多くいた。 ・　体の不自由な人たちへの関心が高まり，そのような人たちへ自分自身ができることを考えるきっかけとなった。
７実践において工夫した点（事業の特色）	・　場の設定や体験に必要な物品の準備については，社会福祉協議会の全面的な協力をいただいた。 ・　児童の体験活動を充実させるために，車椅子や白杖などを数多く準備していただいた。 ・　児童が効果的に体験活動を進めることができるように，少人数のグループに分けて，それぞれのコーナーを回らせた。 ・　コーナーでの指導を充実させるために，社会福祉協議会から多くのスタッフに来ていただいた。
８主な課題等	・　体育館全面を使用するため，体育の授業を止めざるを得なかった。場の設定と時間の設定について考えていく必要がある。 ・　社会福祉協議会の全面的な協力をいただいた。担任が中心となって日程調整等を行ったが，授業等の関係で十分に連絡調整をすることができなかった。 ・　パラリンピックとの関連付けが弱かった。体の不自由な人たちでも，パラリンピックに出場して活躍していることなどを紹介していく必要がある。
９来年度以降の実施予定	オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業での実施予定はないが，キャップハンディ体験は，次年度以降も継続して取り組んでいく予定である。

令和２年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　宮城県　】

学校名【　名取市立閖上小中学校　】

１実践テーマ	Ⅰ・Ⅴ
２実施対象者 （学 年・人 数）	名取市立閖上小中学校
３展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（　　） ② 行事名（　　） ③ その他（　環境整備　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	・　校内の環境整備（校内の掲示コーナーや図書館の整備）を行い，オリンピック・パラリンピックに対する児童生徒の興味関心が高まるようにする。
５　取組内容	【校内の環境整備】 ・　校内に「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置し，児童生徒がオリンピック・パラリンピックに自然に触れることができるように，環境を整えた。 【図書館の環境整備】 ・　図書館に「オリンピック・パラリンピックコーナー」を設置し，オリンピック・パラリンピックに関する書籍を一カ所にまとめ，児童生徒がオリンピック・パラリンピックに触れることができるようにした。

６　主な成果	・　校内にオリンピック・パラリンピックに関する情報，写真の掲示をしたことや図書館へのコーナー設置をしたことにより，オリンピック・パラリンピックに対する児童生徒の興味関心を高めることができた。 ・　オリンピック・パラリンピックに関する図書を特設コーナーとして設置したことで，
７実践において工夫した点（事業の特色）	・　校内の「オリンピック・パラリンピックコーナー」は，より多くの児童生徒が通り，自然と掲示物を目にすることができる場所（体育館へ通じる廊下）に設置した。 ・　小室さんを講師に招いて講演，実技体験を行った際には，スケルトンや小室さんに関する情報も掲示して，児童生徒の興味関心が高まるようにした。 ・　図書館の「オリンピック・パラリンピックコーナー」には，既存のオリンピック・パラリンピックに関連する図書だけではなく，新たに関連図書も購入して充実させた。
８主な課題等	・　今後も校内における環境整備を行ったり，図書の充実を図ったりするためには，予算の確保が必要となってくる。
９来年度以降の実施予定	・　次年度以降も図書館司書と連携を図りながら，オリンピック・パラリンピックに関連する図書等の購入を継続していきたい。 ・　校内のオリンピック・パラリンピックコーナーに関しては，定期的に情報を更新しながら，継続していきたい。 ・　延期になっていた聖火リレーが，次年度本校をゴールにして実施されるので，それらと関連付けた環境整備も行っていきたい。

令和２年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　宮城県　】

学校名【　名取市立閖上小中学校　】

１実践テーマ	Ⅰ・Ⅴ
２実施対象者 （学 年・人 数）	名取市立閖上小中学校 （第３学年・３５人，第４学年２３人，第５学年２４人，第６学年２１人）
３展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（　　体育　　） ② 行事名（　　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４　目　標 （ねらい）	（１）　オリンピックに出場した選手の話を聞くことで，オリンピックに対する児童の興味関心を高める。 （２）　オリンピックへの出場から小室さんが学んだことの話を聞き，自分自身のスポーツへの関わり方について考えさせる。 （３）　児童にとって馴染みの少ないスケルトン競技について学び，スポーツには様々な競技があることを知る。
５　取組内容	（１）「講話」オリンピックについて学ぶ ～スケルトンを通して～ ○　講師　小室　希 （宮城県スポーツ協会ジュニアスポーツ課事業推進員） ○　参加対象　３，４年生　５８人 ５，６年生　４５人 【小室　希さんによる講義】

	バンクーバーオリンピック，ソチオリンピックに，スケルトン競技で出場した小室希さんを講師に招き，オリンピックに出場した経験から学んだことやオリンピックに出場するために努力したことを，スライドを活用しながら講義をしていただいた。映像なども活用しながらの講義だったので，児童はスケルトンのスピードを感じることができた。 オリンピックに出場したときのユニフォーム・ヘルメット・マスコットなどを実際に見せていただいた。また，ユニフォームなどを実際に着用させていただいたことで，児童のスケルトン競技に対する興味が高まった。「将来スケルトンをやってみたい」という児童もいた。 【オリンピックに出場した時の ユニフォームなどの展示】 （2）「実技」スケルトン体験 ○　講師　小室　希 （宮城県スポーツ協会ジュニアスポーツ課事業推進員） ○　参加対象　3，4年生　58人 5，6年生　45人 【児童生徒によるスケルトン体験】 児童全員に，練習用スケルトンにのる体験をさせた。 教員が練習用スケルトンを押して，進むときのスピード感や床を這うようにして進む感覚を体験することができた。どの児童も楽しくスケルトン体験をすることができた。
6　主な成果	・　児童に馴染みの薄いスケルトン競技に関わっている小室希さんを招いたことで，スポーツには様々な競技があるというこ

	とを知ることができた。スケルトン競技に興味をもち「将来スケルトンをやってみたい」という４年生女子児童もいた。 ・　小室さんの「失敗を失敗で終わらせないこと」「つらくても一歩前に踏み出す勇気」といった，実体験に基づく言葉は，これからを生きていく児童にとって，大変勉強となる講義内容だった。 ・　スケルトンの実技体験を通して，スケルトン競技に対する興味関心を高めることができた。
７実践において工夫した点（事業の特色）	・　実際にオリンピックに出場した選手を招き，専門的な立場から，講義や実技体験を行った。 ・　スケルトンの実技体験を設定することで，児童が楽しみながら競技に触れることができるようにした。
８主な課題等	・　オリンピック・パラリンピックに出場した選手を招いて，講義や実技をしてもらうための予算の確保が必要である。 ・　講義と実技の両方で４５分設定で実施したが，児童の体験を多くするために，時間をもう少し長く設定する必要があった。 ・　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，学校への訪問に関して規制が掛かっていた団体もあり，連絡調整に時間と労力を要した。
９来年度以降の実施予定	・　オリンピック・パラリンピック等に出場した選手や著名なスポーツ選手等を招いての講義や実技体験については，次年度以降も考えていきたい。